

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和4年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員の任期は2年、委員数は13名で、うち1名は一般公募により選出されている。会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

【参考】博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和4年12月9日（金）14時00分～15時40分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 セミナーハウスA

4 出席者

樋口正信委員（委員長）、生田目美紀委員（副委員長）、石田奈緒子委員、海老原里美委員、柏 孝子委員、坂本和弘委員、杉山重雄委員、高尾戸美委員、藤咲富士子委員、吉富友恭委員、鷲田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長、湯浅友明副館長、荒井寿紀管理課長、岸川将史企画課長、国府田誠一教育課長、池澤広美資料課長、小池 涉首席学芸員、大崎昌幸主査、栗栖宣博主査、田宮奈津美主事、仁平可那子主事

【文化課】

鈴木浩子課長補佐、青柳裕太主任

5 議事概要

(1) 館長挨拶：

- ・今年度は電気料金の高騰による対応が大変なため、職員については11月末まで各研究室の暖房を使用しないなどより一層の節電に努めている。
- ・昨年度は度々臨時休館があり、博物館の運営に苦労した。
今年度は臨時休館することなく運営できているが、引き続き入館者数を制限する対策を続けている。
具体的には、団体の入館者を1日最大700名までに制限しており、本日は450名程度来館している。また、一般来館者についても、土日祝日等に関しては事前予約制としており、人数制限している。
- ・それでも多くの方に来館いただいております。理由の一つに、企画展が充実していることが挙げられる。「コレクション展」、「昆虫展」はいずれも入館者10万人を超えており、「ときめく石展」も10万人を超えるものと予想している。その後の「いのちの色展」も多くの来館者に訪れていただけるよう準備を進めている。
- ・博物館協議会は博物館運営にとって重要な会議である。この会議では委員の皆さんから様々なご意見をいただき、今後の運営に活かしていきたい。

(2) 会議の成立について

本日の協議会は委員13名中11名の参加があり、会議は有効に成立する。

(3) 議案説明（事務局）

○議題

- ① 令和4年度前期事業の報告について
- ② 令和4年度後期事業計画について
- ③ 予算・決算などについて
- ④ その他

(4) 質疑・意見交換

○A委員

- ・入館者の内訳について教えて欲しい。

□事務局

- ・来館者の内訳については、概ね県内からの来館者が4割、県外からが6割である。
- ・個人・団体の内訳については、学校団体の受入を制限している影響で、コロナ禍前より個人が多くなっている。

○A委員

- ・学校団体の来館をもっと増やしていくのであれば、TX沿線など県外への働きかけやデータ収集、その結果の検討が必要ではないか。茨城県の施設なので県外のどこまでPRすべきかとの問題もあるが、TX沿線は人が多い地域もあるので、もっと積極的に広報してはどうか。

○B委員

- ・「ときめく石展」で地元の中学生の活動などを紹介する展示などは、大変よい試みだと思う。今後の企画展でも続けてほしい。

○C委員

- ・教員時代、校外学習などでお世話になってきた。子どもたちにとって、自身の目を養う重要な機会だと思う。
- ・生涯学習の視点からは、高齢者も参画できる機会がもっと多くなるといいと思う。

○D委員

- ・有料入館者の中で、70才以上の増加率が高いのはなぜか。

□事務局

- ・家族で来館する際に、祖父母と一緒に来る機会が増えているのではないかとと思われる。

○D委員

- ・安全面でメガロドン撤去は理解できる。今後、SNSでの撮影スポットなどを考えていくとよいと思う。
- ・大型液浸標本の撤去については、安全面での問題だけでなく、剥製の方が見やすいので、よいと思う。

○E委員

- ・博物館外で行う教育活動について、オンラインによる出前講座等をどのような形で実施してきたのか。

□事務局

- ・今年度「講師派遣」で3件、「自然ラボ（講座）」で1件実施。
- ・また、「ジュニア学芸員育成事業」では、中間発表及び欠席者を対象とした報告会をオンライン等で実施した。

○E委員

- ・今後も続けていただきたい。

○F 委員

- ・今後の入館者数目標について、コロナ禍以前に戻すことを目標にするのか。
また、その目標数値は適正なのか。
私の知っている範囲では、東京の多摩六都科学館において、人数を制限することにより、来館者にゆっくり楽しんでいただける環境が提供できたと聞いている。

□事務局

- ・コロナ前は約 50 万人の入館者数があった。
問題となっていたのは、学校団体の集中やGW（ゴールデンウィーク）やお盆などの繁忙期に来館者集中していたことである。
- ・混雑度に関していえば、現在の状況はとていい状況である。
来館者の均等化・分散化によりコロナ禍前の水準に戻すことは可能と考えている。

○F 委員

- ・博物館に来られない人や、日本語を話すことが不自由な外国人などへの対応は。

□事務局

- ・現在もSNSによる発信や動画や画像等の一部公開するなど、博物館に来なくても楽しんでもらえるようにしているが十分ではないのも事実である。
今後これらを充実させられるように検討していきたい。

□事務局

- ・外国の方もいらっしゃっているが、現時点では日本語をある程度話せる方が多く、特別な対応をしていない状況である

○F 委員

- ・外国人観光客も増えてくると思うので、「やさしい日本語」の推進をお願いしたい。
- ・別の質問になるが、地域連携の取り組みはしているか。

□岸川企画課長（事務局）

- ・コロナ以前は公的機関や地域団体との連携をしていた。
- ・現在は、広報活動の一環として、ショッピングモールや地元主催の「イベント」等において、ミニ移動博物館（剥製等の資料展示）を行っている。

○G 委員

- ・企画展のレベルが高く、それが口コミで広がっていると思う。
- ・野外を含め幅広く運営していかなければならない中で、時代に即した SNS などの活用も図っている。
- ・いろいろな層に博物館の魅力を訴えかけていくために、例えば YouTube 動画の日本語にルビを入れるなどの工夫も行ってほしい（自動的に入れるソフトがある）
- ・また、身体の不自由な方向けのものとして、企画展の隅で手話の一言コーナーなどを取り入れたらどうか。

○H委員

- ・水戸からだと博物館まで1時間以上かかる。県外来館者が多いのは、県内の水戸地区あたりよりも人口の多い千葉県や埼玉県の市町村が近くにあるなど、地理的条件が影響しているのかと思う。

○I委員

- ・コレクション収集に対する努力は大変だと思う。
- ・イベントや野外調査などで得たデータをどのように活用しているのか。このようなデータは学芸員だけで収集することは難しい。イベントなどで得たデータの活用はあるか、今後の活用を考えて欲しい。
- ・また、野外施設を利用した活動も考えて欲しい。

○J委員

- ・各企画展の入館者が10万人超え、コロナ禍の中でいろいろと考え、実践していることはすばらしい。
- ・その裏では、電気料金の高騰などもあり、制限の大きい中での運営は大変苦勞が大きいと思う。
- ・子供たちがアメシストドームに張り付いている姿が見られたのが印象的で、今後の企画展についても子供から大人まで楽しめる企画を期待している。
- ・移動博物館は、距離をはじめ様々な理由により博物館に来たくても来られない人たちにとって、とても重要な位置づけになっている。

□事務局

- ・企画展では、小学生や中学生が参画する企画を入れることもある。今後も機会を見て取り入れていく。

○K委員

- ・入館者を増やすためには、満足度を評価することが大事。
- ・つくば市では公共交通機関が不便で苦勞している。先日、守谷駅から自然博物館までの直行バスのチラシを見た。大変苦勞されたと思うが、その効果はあったか。

□事務局

- ・関東鉄道バスの協力により、土日のみ直行便を運行している。まだまだ利用者は少ない状況であるが、とても大事なことだと思っている。